



## 誰もが元気に安心して 社会参画できる支え合いと 共生の地域に

### 兵庫県が進める 「ユニバーサル社会の構築」をリード

兵庫県といえば、全国に先駆けて「福祉のまちづくり条例」を制定して(1992年)、高齢者や障害のある方々が暮らしやすい町づくりを進めてきたところである。さらに阪神・淡路大震災を契機に、ボランティアやNPOなど一体となり、県民が主体となって地域づくり活動に取り組んできた。それはまさに、震災復興の中で培った「痛みを分かち合い、ともに支え合う」精神そのものともいえる。

その精神を発展・深化させるものとして、震災10年後の2005年に兵庫県が打ち出したのが、「ひょうごユニバーサル社会づくり総合指針」である。「ユニバーサル」とは、一般的に「普遍的な」とか、「誰にとっても～しやすい」と訳される言葉だが、ここでいうユニバーサル社会とは、誰もが暮らしやすい社会、誰もが参加できる社会という意味である。つまり年齢、性別はもとより、障害の有無、育った文化の違いなどに関わりなく、文字通り、誰もが持てる能力を発揮し、その一員として元気に活動できる社会を指している。

このユニバーサル社会の構築に関して、行政が提唱する以前から組織的に取り組んできたのが、兵庫県遊技業協同組合(以下、兵遊協)である。兵遊協では、「地域社会との共生」を組合の基本方針に掲げ、組合員が一丸となって各種の社会貢献活動に取り組んでおり、その一環として障害者や、いわゆる社会的弱者と呼ばれる方々の生活環境の改善や社会復帰に向けた支援を物心両面にわたって長く継続してきた。それは地元の人々に支えられて企業活動を展開するものの社会的責務であるとの認識に根ざしたものであり、誰もが安全に安心して暮らしを営むことができるユニバーサル社会実現への推進役となってきたことは間違いない。

### 兵庫県遊技業協同組合 「ユニバーサル社会実現に向けた社会貢献」事業



兵庫県遊技業協同組合 理事長  
米田義一さん

#### 選考理由

社会貢献活動審査委員会  
委員長  
堀田力氏



兵遊協は、障害の有無や年齢等に関係なく誰もが同じ地域社会の一員として「安心して元気に暮らせる」ユニバーサル社会(誰でも暮らしやすく参加できる社会)の実現に貢献するためとして、障害者の生活環境の改善や養護児童など社会的弱者の社会復帰に向けた物心両面にわたる援助事業を継続的に実施しており、地域社会への貢献はもとより、組合員の社会貢献意識の啓蒙に果たした役割は極めて大きく高く評価される。



「はあ〜とふるふぁんど」活動を紹介するポスター



「はあ〜とふるふぁんど」支援金贈呈式



「兵庫県はあ〜とふる福祉号」贈呈式

### 「はあ〜とふるふぁんど」で 地域福祉や振興を支援

ユニバーサル社会実現に向けた兵遊協の社会貢献活動の柱(原資)となるのは、「はあ〜とふるふぁんど」(兵遊協・ハート玉福祉支援事業)と「福祉基金」である。2001年に神戸新聞グループの協力を得てスタートした「はあ〜とふるふぁんど」は、地域福祉の向上や地域文化の創生など、よりよきコミュニティ形成に向けた社会貢献事業である。

この事業は、組合加盟の遊技ホールのお客様の協力を得て、遊技時に出たこぼれ玉や景品交換後の余り玉、さらにホールからの寄付金を加えて(それらを「ハート玉」と総称)、基金として積み立て、そこから兵庫県内でボランティアや福祉事業、地域振興事業を行う団体・組織などに年一回、支援金として寄付するものである。支援先は、ボランティア・福祉活動を行うNPO法人や福祉ボランティア団体、青少年の健全育成に関わる団体などを支援する「ひょうごボランティアあしすと」部門と、地域振興

(町おこし、町づくり)活動をしている民間団体やNPO法人、第3セクターなどを支援する「ひょうごふるさと振興サポート」部門の2部門に分かれている。

支援金申込は所定の用紙・申請方法によって行うが、昨年は「ボランティアあしすと」で17団体(総額600万円)、「ふるさと振興サポート」で15団体(同900万円)に支援金が贈呈された。なお、スタートから昨年までで、499団体に総額約2億4600万円が贈呈されている。公明正大を期するため、審査にあたっては神戸新聞社、しみん基金・KOBEL、商工会連合会、ラジオ関西、サンテレビ、兵遊協事務局などのメンバーによって構成される審査会が、一次審査、最終審査の2段階にわたって審査している。さらに恣意性を排除するため、審査基準も「団体の信頼度」「事業の斬新性」「事業の話題性(効果)」と、項目が明確化されている。なお、原則として、同じ団体の連続支援は2年までとなっている。また、支援を受けた団体には、事業報告書の提出を義務づけており、それによって事業実施の検証を行う仕組みとなっている。

ホールからの寄付金で運営される福祉基金

兵遊協の社会貢献事業のもうひとつの柱である「福祉基金」は、加盟ホールから遊技機1台につき200円の寄付金を募って積み立て、それを福祉団体や公益団体、さまざまなイベントや行事などに活動資金として寄贈する事業である。さまざまな活動に継続的に寄贈されているが、昨年の例として代表的なものを挙げれば、要介護者外出支援活動として、車椅子を積載できる福祉車両「兵庫県はあ〜とふる福祉号」を、小野市と姫路市の社会福祉施設に1台ずつ寄贈した。この事業は2003年から継続しており、これまでに合計137台(総額約1億5100万円)が寄贈され、最近では、はあ〜とふる福祉号をよく見かけるといふ声も県民から届けられている。

同じく03年から継続しているのが、毎年、篠山市で開催される「全国車いすマラソン大会」への支援である(総額1150万円)。この大会はスポーツを通じて障害者の健康増進や生きがいづくりを目的とするもので、車いすマラソン大会の日本3大会のひとつとされ、昨年も120名

の選手が参加した。また、スポーツ関連としては、「神戸市少年団野球リーグ〜兵庫地区・長田地区はあ〜とふる杯争奪リーグ戦大会」、「兵庫県警察少年柔道・剣道大会」、「神戸全日本女子ハーフマラソン大会」などへの支援も行っている。

さらに青年部会が中心となって実施しているのが、「社会福祉ばちんこ競技大会」である。これは、誰もが楽しめるレジャーとしてパチンコを位置づけ、日ごろは気軽にホールに行けない障害者の方々に招いて楽しんでいただく大会である。昨年は、加古川市のホールを会場に、県内や神戸市内の11の福祉施設から44名の入所・通所者が参加した。また、この大会と交互に隔年で実施しているのが、障害者(児)と健常者(児)の触れ合いと交流を目的とする「はあ〜とふるふあんどフェスタ」である。これらは、実施にあたって青年部会が直接、人的貢献をしているほか、チャリティゴルフコンペで集まった寄付金などを福祉基金として寄付している。

このほかにも、家庭養護促進協会が主催する「里親家

庭ファミリーキャンプ」、神戸市母子生活支援施設協議会の「母と子の合同運動会」、ひょうご子ども家庭福祉財団の「夏のレクリエーションツアー」、神戸市みなと総局の「みなと神戸花火大会(障害者観覧席の設置等)」などの支援事業を行っている。

組合員の社会貢献に対する認識と参加率向上

こうした取り組みにあたって、兵遊協では兵庫県健康福祉部などの行政や社会福祉協議会、県下で活動するボランティア団体、マスコミ関連会社などと緊密な連携を取り、効率的で効果的な社会貢献ができるように努力している。また、地元新聞社、テレビ局、ラジオ局をはじめとするさまざまなメディアと良好な関係を構築することによって、各種の活動は広く県民にタイムリーに広報されている。ちなみに、「はあ〜とふるふあんど」に関する広報だけでも、ポスターやチラシの作成・配布・掲示にはじまり、ラジオ関西でのCMが月間50本、サンテレビでのCMが半年間40本、放送されている。このような広報活動により、兵遊協の活動に対する認知度も年々、向上しているという。

「積極的な広報活動のおかげで、業界に対する信頼感が醸成されるとともに、組合員の間でも社会貢献に対する認識が飛躍的に高まり、ますます積極的に活動に取り組む支部会員、ホールが増えるなど、好循環が生まれつつあります。2001年には組合員の社会貢献活動への参加率は約78%でしたが、09年には約92%と向上しました」と、兵遊協事務局の関土郎事務局長と都倉通憲さんは語る。こうした機運をさらに盛り上げるために、兵遊協では昨年から「はあ〜とふるふあんど功労賞」を発足させ、有用な社会貢献活動を行った組合員ホールを顕彰している。

震災の経験を糧に芽生えた地域との共生の意識を、現実の社会貢献活動に昇華させていく兵遊協の取り組みは、その構想、組織だった実践という観点から見ても際立っている。今後も、全国の遊技業組合や支部組合、組合員ホール単体が行う社会貢献活動の恰好の手本となっていくことは間違いない。



県内や神戸市内の11の福祉施設が参加した「社会福祉ばちんこ競技大会」



支援した神戸市母子生活支援施設協議会の「母と子の合同運動会」



障害をもつ子どもたちを「ディズニー・オン・アイス」公演へ招待する「夏のレクリエーションツアー」



03年から継続的に支援している「全国車いすマラソン大会」